

①	船会社による寄港地の絞り込みが激化するなか、基幹航路・アジア航路等を維持・拡大するためには、どのような機能強化を図るべきか	
分類	施策の方向性	施策のイメージ
貨物	貨物をこれまで以上に「集貨」する 貨物を新たに「創貨」する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内航船等のフィーダー専用ふ頭の整備と外貿ふ頭とのシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入)</li> <li>・内貿ふ頭、鉄道貨物ターミナルと外貿ふ頭とのシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入)</li> <li>・インランドデポと外貿ふ頭間におけるシャトル便の運行(自動運転、隊列走行、共同輸送)</li> <li>・河川を活用した内陸部へのはしけ輸送</li> <li>・新たな道路ネットワークの構築(広域ネットワーク、臨海部へのアクセス、港内道路)</li> <li>・重要物流道路の拡充</li> <li>・海上コンテナ車両が特別の許可なく通行できる環境の整備</li> <li>・国内貨物の集荷に向けた荷主、背後圏の工場、船社へのポートセールス</li> <li>・内航航路ネットワークを活用した農林水産物・食品の集荷促進</li> <li>・東南アジア-北米のトランシップ貨物等の取り込みに向けた荷主・船社へのポートセールス</li> <li>・東京港利用インセンティブ制度の拡充</li> <li>・海貨を取扱う倉庫の誘致、倉庫の建替え促進</li> <li>・海貨の高付加価値化に資する高機能倉庫の誘致</li> <li>・冷蔵貨物の取扱量増加に対応したリーファーブラグの増設、共同利用</li> </ul>
施設	大型船に対応する 自動運航船に対応する 寄港船の滞在時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型船に対応した新規ふ頭の整備(既定計画の変更を含む)</li> <li>・既存ふ頭の再編整備(岸壁等の増深、連続バース化)</li> <li>・クレーンの大型化(揚程高、ブーム長)</li> <li>・自動運航船の寄港を可能とする施設の整備</li> <li>・ヤードの拡張、ヤードの高度利用化、ヤードレイアウトの見直し(ターミナル処理機能の向上)</li> <li>・「ヒトを支援するAIターミナル」の実現に向けた施設のIoT化(センサーの設置、クレーンの高度化)</li> </ul>
運営	寄港船の滞在時間を短縮する ふ頭周辺の交通混雑を緩和する 貨物引取の利便性・生産性を高める 入港料、係船料等のコストを下げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIを活用したコンテナプランニング、事前荷繰り、搬出入事前予約制などの実施</li> <li>・港湾のデジタルツイン化による貨物流動の予測、最適なソリューションの提示</li> <li>・各ふ頭におけるターミナルオペレーションシステムの一体運用、バース・クレーンの規格統一化・相互融通(繁忙期・遅延時対応)</li> <li>・ターミナル間のシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入)</li> <li>・ゲートオープン時間の拡大</li> <li>・サイバーポート(港湾関連データ連携基盤)の導入</li> <li>・貨物のトレーサビリティ(見える化)の促進</li> <li>・減免等のインセンティブ制度の拡充</li> </ul>
環境	環境に配慮した船舶の受入体制がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上電源設備やLNGバンカリングなど、船舶への次世代エネルギー(カーボンニュートラルな電力)供給設備の整備</li> </ul>
防災	発災時にも港湾機能を維持し、安全を確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震強化岸壁、免震クレーンの整備</li> <li>・港内の無電柱化の推進</li> <li>・ターミナル機能を維持する電力バックアップ機能の確保</li> <li>・ふ頭の浸水対策の強化(コンテナの流出防止、電気設備の機能喪失への対策、ふ頭用地の嵩上げ)</li> <li>・発災時における港湾間の連携による物流網のリダンダンシーの確保</li> <li>・関係機関との連携による感染症対策、特定外来生物対策の強化</li> <li>・ICT等を活用した情報共有及び発信</li> </ul>

# 「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）

分類	施策の方向性	施策のイメージ
②	東京港最大の課題である、コンテナターミナルゲート前の交通混雑を解消するためには、どのような取組が必要か	
	施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲート処理時間を短縮する</li> <li>ゲート処理時間を短縮する</li> <li>港湾関連施設間におけるコンテナ輸送を効率化する</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同ゲート及び車両待機場の整備</li> <li>ICT技術を活用した搬出入情報の処理(サイバーポート(港湾関連データ連携基盤))を可能とする設備の整備</li> <li>ヤードの拡張、ヤードの高度利用化、ヤードレイアウトの見直し(ターミナルの処理能力の向上)</li> <li>「ヒトを支援するAIターミナル」の実現に向けた施設のIoT化(センサーの設置、クレーンの高度化)</li> <li>バンブール・シャーシプールのターミナル周辺への集約化</li> <li>バンブールとヤードのシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入)</li> <li>ターミナル間のシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入)</li> </ul>	
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲート処理時間を短縮する(リードタイムを短縮する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>搬出入事前予約制の実施</li> <li>ICT技術を活用した搬出入情報の処理(サイバーポート(港湾関連データ連携基盤)の導入)</li> <li>共同ゲートの運用</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤード内荷役時間を短縮する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIを活用したコンテナプランニング、事前荷線りなどの実施(「ヒトを支援するAIターミナル」)</li> <li>港湾のデジタルツイン化による貨物流動の予測、最適なソリューションの提示</li> <li>各ふ頭におけるターミナルオペレーションシステムの一体運用</li> <li>ヤードクレーンの規格統一化・相互融通(繁忙期・遅延時対応)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラックの来場時間を平準化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>搬出入事前予約制の実施</li> <li>ゲートオープン時間の拡大</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラックの来場台数を削減する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内航船舶・はしけ・鉄道による貨物輸送の促進(内航船等のフィーダー専用ふ頭の整備と外貿ふ頭とのシームレスな接続)</li> <li>(内貿ふ頭、鉄道貨物ターミナルと外貿ふ頭とのシームレスな接続)</li> <li>(河川を活用した内陸部へのはしけ輸送)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>港湾関連施設間におけるコンテナ輸送を効率化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バンブールとヤード間におけるAGV等によるコンテナ輸送</li> <li>シャーシの共同利用</li> <li>インランドデポと外貿ふ頭間におけるシャトル便の運行(自動運転、隊列走行、共同輸送)</li> <li>インランドデポと鉄道貨物駅との連携(共同輸送)</li> <li>港湾のデジタルツイン化による貨物流動の予測、最適なソリューションの提示</li> </ul>

# 「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）

③ 限られた港湾空間で、機能強化を果たすためには、大井・青海・品川コンテナターミナルの再編において、どのような取組が必要か

分類	施策の方向性	施策のイメージ
貨物	貨物をこれまで以上に「集貨」する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内航船等のフィーダー専用ふ頭の整備と外貿ふ頭とのシームレスな接続（道路の専用レーン化、AGVの導入）</li> <li>・内貿ふ頭、鉄道貨物ターミナルと外貿ふ頭とのシームレスな接続（道路の専用レーン化、AGVの導入）</li> </ul>
	貨物を新たに「創貨」する	
施設	大型船に対応する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型船に対応した新規ふ頭の整備（既定計画の変更を含む）</li> <li>・既存ふ頭の再編整備（岸壁等の増深、連続バース化）</li> <li>・クレーンの大型化（揚程高、ブーム長）</li> </ul>
	自動運航船に対応する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動運航船の寄港を可能とする施設の整備</li> </ul>
	寄港船の滞在時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤードの拡張、ヤードの高度利用化、ヤードレイアウトの見直し（ターミナルの処理能力の向上）</li> <li>・「ヒトを支援するAIターミナル」の実現に向けた施設のIoT化（センサーの設置、クレーンの高度化）</li> </ul>
	ゲート処理時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同ゲート及び車両待機場の整備</li> <li>・ICT技術を活用した搬出入情報の処理（サイバーポート（港湾関連データ連携基盤））を可能とする設備の整備</li> </ul>
	ヤード内荷役時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤードの拡張、ヤードの高度利用化、ヤードレイアウトの見直し（ターミナルの処理能力の向上）</li> <li>・「ヒトを支援するAIターミナル」の実現に向けた施設のIoT化（センサーの設置、クレーンの高度化）</li> <li>・各ふ頭におけるターミナルオペレーションシステムの一体運用</li> <li>・ヤードクレーンの規格統一化・相互融通（繁忙期・遅延時対応）</li> </ul>
	港湾関連施設間におけるコンテナ輸送を効率化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バンプール・シャーシプールのターミナル周辺への集約化</li> <li>・バンプールとヤードのシームレスな接続（道路の専用レーン化、AGVの導入）</li> <li>・ターミナル間のシームレスな接続（道路の専用レーン化、AGVの導入）</li> </ul>
環境	環境に配慮したカーボンニュートラルポートを実現する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターミナル内施設における次世代エネルギー利活用の拡大</li> <li>・陸上電源設備やLNGバンカリングなど、船舶への次世代エネルギー（カーボンニュートラルな電力）供給設備の整備</li> <li>・内航船やはしけ・鉄道の活用など、環境にやさしい輸送モードの利用を促進</li> <li>・港湾荷役機械や構内トレーラーへの燃料電池導入</li> <li>・トレーラー等向け水素ステーションの整備</li> <li>・施設の上部を利用した太陽光発電</li> <li>・SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組の推進</li> </ul>
防災	発災時にも港湾機能を維持し、安全を確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震強化岸壁、免震クレーンの整備</li> <li>・港内の無電柱化の推進</li> <li>・ターミナル機能を維持する電力バックアップ機能の確保</li> <li>・ふ頭の浸水対策の強化（コンテナの流出防止、電気設備の機能喪失への対策、ふ頭用地の嵩上げ）</li> </ul>

## 「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）

④	狭隘な東京港において、道路や倉庫、バンプール・シャーシプール等の機能的配置を実現するためには、どのような取組が必要か
---	--

分類	施策の方向性	施策のイメージ
施設	コンテナターミナルの機能強化に資する施設配置を促進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな土地造成や土地交換による用地の創出</li> <li>・バンプール・シャーシプールのターミナル周辺への集約化</li> <li>・バンプールとヤードのシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入)</li> <li>・ターミナル間のシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入)</li> </ul>
貨物	東京港の機能強化に資する倉庫配置を促進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな土地造成や土地交換による用地の創出</li> <li>・海貨を取扱う倉庫の誘致、倉庫の建替え促進</li> <li>・海貨の高付加価値化に資する倉庫の誘致</li> </ul>
環境	環境に配慮したカーボンニュートラルポートを実現する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の上部を利用した太陽光発電</li> </ul>

⑤	労働力不足が危惧される中、働きやすい港づくりを行い、港湾の生産性を向上させるためには、どのような取組が必要か
---	--

分類	施策の方向性	施策のイメージ
快適	誰もが安心して働ける職場環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヒトを支援するAIターミナル」の実現</li> <li>・みなとの駅の整備(コンテナ車両等が駐車可能、コンビニ・食堂・休憩・交流施設)</li> <li>・トイレや休憩施設等の充実</li> <li>・保育所・託児所の整備</li> <li>・ユニバーサルデザインの推進</li> <li>・DXの推進により、安全で快適な生産性の高い職場環境の実現</li> </ul>
	通勤手段を確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通手段の充実(路線・頻度・定時性の確保)</li> <li>・自動運転等の最新交通手段の導入</li> </ul>
防災	災害発生時の安全性を確保する 特定外来生物、新型ウイルスに対する防御機能を強化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT等を活用した情報の共有及び発信</li> <li>・ふ頭の浸水対策の強化(コンテナの流出防止、電気設備の機能喪失への対策、ふ頭用地の嵩上げ)</li> <li>・耐震強化岸壁、免震クレーンの整備</li> <li>・港内の無電柱化の推進</li> <li>・関係機関との連携による感染症対策、特定外来生物対策の強化</li> </ul>